

【投稿】辺野古埋め立て 直ちに中止を

西坂戸 大山 茂

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設の是非を問う県民投票は2月24日投開票が行なわれました。投票率は52.48%、投票結果は、賛成11万4933票(全有権者の9.9%)、反対43万4273票(全有権者の37.6%)、どちらでもないは5万2682票でした。

反対票が投票総数の7割を突破し、全有権者の4分の1を大きく超え、昨年9月の沖縄県知事選で玉城デニー知事が獲得した約39万票も上回り、県民の意思が明確になりました。

県民投票条例は、最多得票の選択肢が全有権者の4分の1に達した場合、知事は結果を尊重し、首相や米大統領に内容を通知すると規定されており、玉城氏は早速、安倍晋三首相とアメリカ大統領に結果を報告する考えを示しました。

沖縄の県民投票の結果は、辺野古埋め立て反対の明確な民意を示すものとなりました。この結果は、沖縄の民主主義、地方自治の勝利であり、沖縄県民の歴史的な勝利です。

なおかつ、民意を示す「住民投票」がこのように実施できたことは、今後の憲法9条を守る運動の発展にとって大きな励みとなります。

県民投票の結果について、安倍首相は「投票の結果は真摯に受け止める」と言いつつも、「県民の理解を得ながら、辺野古基地建設を進める」と強弁しています。

埋め立てを強引に進めている辺野古沖には軟弱地盤もあり、新基地建設は技術的にも困難であることも明らかになっています。

安倍政権は、県民投票に示された沖縄県民の民意を重く受け止め、辺野古新基地建設のための埋め立てを直ちに中止すべきです。普天間基地は無条件で撤去していくことをアメリカ政府に求めていくべきです。

戦跡めぐりの感想から(2)

◆ 今回の戦跡めぐりでも「ペトン」は景徳鎮でできている」といった説明が参加者の中からあった。

この説明は、最初の頃の戦跡めぐりの案内者からなされていたもので、「ペトン」はコンクリートの代用品として、陶磁器に使われる中国景徳鎮の土を焼成したもの」とのことだった。

しかし、その後の大山さんの調査によって、ペトンとはベトン、すなわちコンクリートのドイツ語読みであったことが判明した。

坂中の卒業生である大山さんが在学していた当時も「ペトン」と言っていたそうなので「坂戸訛り」と考えれば間違いではないだろうが、そこに景徳鎮云々まで加わると、解説ならぬ怪説でしかないような。景徳鎮の根拠を知りたいところだ。

◆ 昨年の中雨とは違い、天気にも恵まれた中での戦跡めぐりとなり良かった。

大山さんが作成された資料もわかりやすい内容で非常に良かった。

今回初めて筑波大附属高校の中に入った。防火用

水桶の大きさに驚いたが、その一方、何の案内表示もされていないことにはがっかりした。

案内表示をすべきかと思う。(写真は坂中の弾薬庫)

また戦跡めぐりと別件になるが、筑波大附属高校の広さや、豚や鶏を飼育していることにも驚いた。



発見！市民活動フェア

九条の会さかども出展しています！

日時 3月16日(土)10時～15時(途中からでも！途中まででも！)

会場 入西地域交流センター(九条の会さかどブースは2階です)

市民活動やボランティア活動をしている活発な皆さんが参加する市役所のイベントで、坂戸市民と9条について語りあえる貴重な機会にご参加を！

畑やビニールハウスも敷地の外からしか見たことがなかったが、敷地内から見ることができ、農機具や工場があることも知ることができた。

座学13人、見学11人と多くの参加者があったのも良かった。(平瀬敬久)

- ◆ 九条の会さかどの皆さんと一緒に、市内の戦争遺跡めぐりに参加しました。中央公民館でレクチャーを受けてから、約1時間を費やして6ヶ所を回りました。

弾薬庫、被爆アオギリ、防火用水桶、ペトン、陸軍の標石、平和都市宣言を見て回りました。全体に保存状態は良くなく、この先残るのかなーと思いました。

日高・高萩の飛行場についても、同様なことができるかは、帰ってから考えてみたいと思いました。撮影した写真はFacebookに押せたいと思っています。(日高市 渡辺伸一)

- ◆ 今回初めて戦績めぐりに参加して、坂戸の飛行場跡地がこんなに身近な所にあることに驚きました。余りにも坂戸市の歴史を知らな過ぎるなと思いました。

坂戸市に住んで35年にもなるのに、ほんの少し前までの坂戸のことを知らな過ぎると思います。ましてや、73年前に日本に戦争があり、その戦争に関わる密接な軍事用飛行場や弾薬庫など、「九条の会」にふさわしい見学でした。

まだまだほんの少ししか回りませんでした。坂戸中学校、筑波高校、市役所周辺など、きちんと残すべきだと思いました。

飛行場の周りをじっくり全部歩いてみたいと思いました。戦跡以外にも色々話がふくらんだりして面白かったです。こういう機会があったら参加したいと思います。

飛行場跡のマップも、わかりやすい絵図などを入れたカラー版が将来的にできたらいいと思います。

(西坂戸 大山嘉代子)

- ◆ 最後に訪れた市役所に掲げられている「平和都市宣言」を拝見しました。

安倍政権は「戦争法」に始まり数々の危険な法律を強行しています。私たちは九条の会さかどに結集しているわけですが、当局はもとより市議会においてこうした問題にどのように取り組まれているのか、もっと関心を持ちたいものです。具体的に九条の会などに対して援助するとか政策として求められないものか、素朴な感情として思います。

保守的な議会が多数を占めているとはいえ、坂戸市としての「平和都市宣言」は何人も否定できない

ものと思います。九条の会として議論を深められたらと思います。(仲町 山本勝利)

- ◆ 公式な記録が残っていない実情に対して、戦跡として「飛行場の全体像」正門、施設内容、おおよその位置と規模を明らかにできないだろうか。

坂戸市と坂戸市教育委員会が戦跡としての価値を認めていないからか、「アオギリ」などの案内説明版は余りにも小さいと思う。

戦争と平和に関して、子どもたちに年齢に対応した「平和教育、ふるさとの歴史」の一環として、戦跡めぐりを考えても良いと思う。(石川)

- ◆ これまで参加のチャンスを5回ぐらい逃してきましたが、ようやく坂戸の飛行場を中心としての戦跡を歩くことができました。

案内されねばわからない戦跡が、解説付きでよくわかりました。

戦跡めぐりのラストを「平和都市宣言」で締めることができました。今後よろしくお願いいたします。

(溝端町 若菜俊文)

語り継ぐ会の感想から(1)

- ◆ 田中一枝さんの戦前・戦中・戦後にまつわる苦労話や状況のお話を聞いて、自分の知らない話が一杯ありました。正直、相当ご苦労があったのだと想像しました。

今は映像や活字で知るしかなく、田中一枝さんや石川さんの今日の話はその当時から生きてきた生き証人の話でした。戦後生まれの私は幼い頃、父や母から聞いたくらいの当時の話しか知りませんでした。

やはり、年配者が生きていうちに、戦中・戦後の状況をもっともっと話してもらい、記録として残していくことが大切だと痛感しました。

二度とこのような大勢の人々を苦しめた戦争を起こしてはいけないと強く思います。そういう意味では九条の会さかどの存在は大いに意義があると思います。(大山嘉代子)

- ◆ 終戦当時の時代のテーマのない雑談会。主として生活・教育関係等々で、田中一枝さんの回想が多かった。

断片的な、つながりがない話が多く、深まりが少なかったようだった。テーマを絞って欲しかった。

現代史的な学習が必要では。身近に基づくものにしてほしい。

司会者の問題提起が良かった。散漫になりそうな会を救った感があった。(新井安造)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

3月28日、4月25日、5月23日(第4木曜日10時~12時)
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室